

令和6年6月17日

令和5年度 指定管理施設の管理運営状況(年間)モニタリング評価表

1 施設概要

施設の名称	浦添市立浦城っ子児童センター
指定管理者名	株式会社オフィスハート
指定期間	令和2年4月1日～令和6年3月31日

2 利用状況

利用月	利用者目標数	利用者数	利用率%
4月～9月	7,879	8,900	112.96
10月～3月	7,707	7,234	93.86
合計	15,586	16,134	207

3 収支の状況

	予算額	実績額	差額
収入			
指定管理料	15,268,680	15,268,680	0
利用料金	30,500	65,500	-35,000
受取利息	0	0	0
収入合計(A)	15,299,180	15,334,180	-35,000
支出			
人件費	11,234,180	10,854,660	379,520
外部委託費	2,510,000	2,510,547	-547
その他経費	1,590,000	1,867,908	-277,908
支出合計(B)	15,334,180	15,233,115	101,065
収支合計(A)-B)	—	101,065	—

4 精算額 101,065 円

5 自主事業

事業名	内容	利用者数
木育推進事業	乳幼児には木のおもちゃを、年齢が大きくなると、木のおもちゃと木のゲームやパズル、ワークショップの企画などを、対象別に、木のものに触れる機会を提供している。情緒の安定に効果がある点のエビデンスを取りながら進めて行きたい計画。	16,134
浦城っ子ファーム	昨年に引き続き、センター横の花壇を整備し、農園活動を行った。子ども達と土の耕しから苗植え、水やり、収穫まで取り組んでいる。収穫した野菜は、土曜日の昼食支援やおやつに活用している。また、こども食堂の食品ゴミを活用した、コンポストにも挑戦中。地域の方々と関わるきっかけや、来館するきっかけになり、喜ばれている。	800
子ども食堂(浦城っ子こども食堂)	2020年の賞味期限間近のマジックライス活用から始まった食事支援は、毎週80食の弁当配食(3センターで150食を作る)まで支援が広がり、保護課やSSWとも繋がり、不登校やネグレクトが心配される家庭との関わりのきっかけになるなど、期待が高まった。今夏は100万円の助成金も活用した。また、地域企業から月1回の弁当寄付もあつたりと活動が広く周知された。引き続き、関係機関、支援が必要な家庭と繋がりを持ち、支援の輪を広げていきたい。	3,494
アクアリスト水槽展示事業(お魚プロジェクト)	館内に海水槽を設置し、沖縄美ら海水族館の方からのアドバイスを受けながら、海の生き物(魚、貝、イソギンチャク、ソフトコーラル)を子ども達と飼育し、生態、命の大切さを伝えている。(2021年からの継続)	16,134
生き物育成事業	3021年、幼虫から育成を始めたオキナワカブトムシ。孵化させ、成虫になったもの同士を交配させ、卵を飼育中。引き続き、来年春の孵化・羽化を子ども達と目指している。また、縁あって児童センターにきたウサギを飼育し、利用児童が可愛がり、餌や水をあげ、掃除などを行い、命に触れる教育を引き続き行っている。	750
図書の日	毎月第3土曜日を「図書の日」とし、普段遊んでいるおもちゃの貸出を行わず、センターにたくさんある本を手に取り、読むことの楽しさや面白さを感じさせた。デジタル化が進む中、紙の本に触れ、ゆっくり座り読み進めることで集中力を高めるねらいもあり、子どもたちに浸透してきている。	2,912
防災周知事業(福祉避難所)	助成金に採択され本格始動した福祉避難所の体制整備。行政、学校、福祉関係者はもちろん地域の商店や高校生にも繋がることできた。子どもたちの声からはじまり、大人たちで話し合い、最後は車いす・担架の体験会まで5つのワークショップを実施できた。	200
地域交流(毎日の交流)	地域に住んでいる方々が毎日来館し、こども食堂の仕込みや配膳の手伝いを子ども達と一緒に行ってくれたり、日常のセンターで折り紙やお手玉など昔遊びを教えてくださいようになった。・孫のように子どもたちに接していただき、センターの中でも外でも子ども達を見守ってくださる、最強サポーターの輪が広がっている。	16,134

～子ども居場所支援活動～ 子ども食堂ネットワーク ユニゾンハーツ	2022年、浦添市内の子ども食堂を中心とする居場所同士のつながり・食材提供のハブ活動担うネットワーク団体を発足。浦添市内にむけ、連携し活動中。(子ども食堂への食材の提供あり。)	1,500
合計		58,058

6 指定管理者の分析(サービス向上の取組等)

(全体を通して)子ども達が安全に楽しく過ごし、無事に指定管理4年目を終えることができたことを何より嬉しく振り返ると共に、浦城地域の特性を実感を持って理解し、コロナ禍対策も必要なく、活発な活動ができた1年だったと振り返る。

設立20周年を目前に、福祉避難所としての防災意識を高め、地域との連携がより実態ある強固なものとなり、双方に良い形で関係を深めている。**地域を理解し、施設目的を最大限に果たしたい中、地域ボランティアの方の力が大きくなり、内容の幅がバリエーションに富んだ1年だった。**

(木育事業)引き続き、こどもの育ちに必要な良質な木もおもちゃを遊びに取り入れ、事業を実施。定期的な利用者がおり、より積極的に集客をうながし、事業を発展させながら、実施したい。

木のおもちゃを目当てに遊びに来る乳幼児のリピーターもおり、他の支援センターへの評価も耳に入るため、より使いやすい施設になるよう心がけることができている。

(沖縄食育子ども食堂)食事支援が必要な家庭に、お弁当(土曜の昼食)や物資の配布の連携ができ、支援家庭から多くの感謝が伝わっている。てだこ未来応援員、CSWとも連携し、不登校やネグレクトが心配される家庭との関わりのきっかけになっている。また食堂活動を周知したことで、地域企業(マルユーハウジー様)から月1回の弁当寄付の支援をいただけるようになり、育成支援の食育として深く広く活動を続けられるきっかけになっている。(ユニゾンハーツの設立、沖縄県子どもの居場所応援金事業等活用、沖縄県子どもの居場所ネットワークへも加入)

(命を学ぶ)現代は家庭で難しいと言われる動物の飼育からは、健康状態、食事・トイレの世話、仲間意識、タッチセラピー的効果などを狙いに、安全・衛生面に配慮しながら生き物に目をかけることで、他ではできない命の教育をしている。生き物に触れ、気持ちにゆとりや優しさが見られる様になっている。

(図書の日活動)デジタル化が進む中、紙の本に触れ、ゆっくり座り読み進めることで**集中力を高め、落ち着いた時間を過ごす**といったねらいもあり、子どもたちに浸透してきている。いつもと違ったセンターの活用について、児童たちからアイデアが積極的に出るようになり、より児童の施設への愛着と参加性が感じられる1年となった。

(地域連携)福祉避難所としての役割を地域で共有するなかから、新たな課題も見えており、生きた施設として、できること足りないことを精査し、関連機関と連携して、いろいろなシーンで連携できるようになってきている。児童が地域を回って商店にインタビューをするなどの活動もあり、顔の見える地域との関わりを大切な体験として積極的に学びを重ねている。

【その他】

- ・3センター共通で、自分の名前が漢字で書けるように、丸い時計が読めるように、挨拶がしっかりとできるように、を教えている。小さなことでも児童センターで学んで、社会に出て役立ったと言われる社会体験を届けられるよう、今後もニーズを確認しながら進めてまいります。

- ・小学校から中学卒業まで、不登校だった女兒が、ピアラル 浦添との連携で来館するようになった。来館する中からいろいろな話をし、女兒も心を開いてくれたことから、信頼関係を気づくことができ、高校進学に成功。卒業後の進路の夢まで語ってくれるようになった。笑顔で来館するようになったその児童から「明るくなれたのはセンターのおかげ」という言葉がでてきて、職位冥利に尽きる、と皆でころこんだという嬉しいことも、事業をとうして多々あります。引き続き施設目的に忠実に、地域の児童福祉の担い手の1つとして、チーム一丸となって尽力してまいります。

7 項目別評価表

市評価年月日 令和7年4月24日

指定管理者と市が評価する。(4:優良 3:適正 2課題含 1要改善)

施設の状況により、項目内容は変更する場合がありますが、25項目数は変更しない。

項目	維持管理に関すること(年2回以上) 【適正性】	自主評価	市評価
①	法令等を遵守しているか。	4	3.7
②	労働環境は適正か。	4	3.7
③	収入・支出の取扱は適正か。	4	3.7
④	年間事業計画のとおり業務を遂行しているか。	4	4.0
⑤	開館時間、休館等は適正か。	4	4.0
⑥	利用者の個人情報保護は適正か。	4	4.0
⑦	日常の事故防止、安全対策は適正か。	4	4.0
⑧	日常の清掃は適正か。	4	4.0
⑨	防犯・警備業務は適正か。	4	4.0
⑩	備品の管理は適正か。	4	4.0
⑪	施設の維持管理(修繕)は適正か。	4	4.0
⑫	危機管理体制(緊急時対応)は適正か。	4	4.0
⑬	施設の使用許可、使用料の減免は適正か。	4	4.0
⑭	利用者に対する接客や職員態度は適正か。	4	4.0
⑮	施設の維持管理に係る人員は適正か。	4	4.0
⑯	施設の定期保守点検は適切か。	4	3.7
16項目	小計	64	62.7

点数を記載する。

項目	経営等事務処理に関すること(年1回以上) 【効率性】	自主評価	市評価
①	適正な経理事務であるか。	4	3.7
②	省エネルギー等環境配慮に努めているか。	4	3.3
③	支出の減少を図る取組を行っているか。	4	3.3
④	職員の資質・能力の向上を図る取組をしたか。	4	3.3
4項目	小計	16	13.7
項目	【有効性】		
①	施設の設置目的が十分に達成できたか。	4	4.0
②	利用者の意見を把握するしくみが確立しているか。	4	3.3
③	協定は遵守しているか。	4	3.7
④	利用者の満足度はどうか。	4	4.0
⑤	地域のため貢献しているか。	4	4.0
5項目	小計	20	19
25項目	合計	100	95.3

8 評価基準

(前ページの25項目(年間)合計を100点満点とする。)

	評価点	評価内容
項目別評価	4	法令等を遵守し、計画された業務水準を超える指定管理者独自の取組を実施するなど、特に優れている。
	3	法令等を遵守し、適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準のとおり成果を上げている。
	2	法令等を遵守しているが、指定管理業務の一部に課題がある。
	1	法令等を遵守しておらず、改善の必要がある。又は年間を通じ計画された業務の水準を達成できなかった。

ここでの「法令等」とは、法令、条例、規則、協定書、仕様書、事業計画書等をいう。

	評価		評価内容
総合評価	A	優良	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ90点以上である。中間評価の場合は、53点以上とする。
	B	適正	市の項目別評価がすべて3点以上、かつ75点以上90点未満である。中間評価の場合は、45点以上53点未満とする。
	C	課題含	市の項目別評価に2点が1つでもある。
	D	要改善	市の項目別評価に1点が1つでもある。

9 市の総合評価

評価	評価コメント
A	・地域の子育て支援の環境整備がすばらしく、木を使った遊具を揃え、特色ある遊びの提供を行っている。